資料４

関西広域連合

関西水素サプライチェーン構想実現プラットフォームについて

令和４年３月 24 日
エネルギー検討会

１．概　要

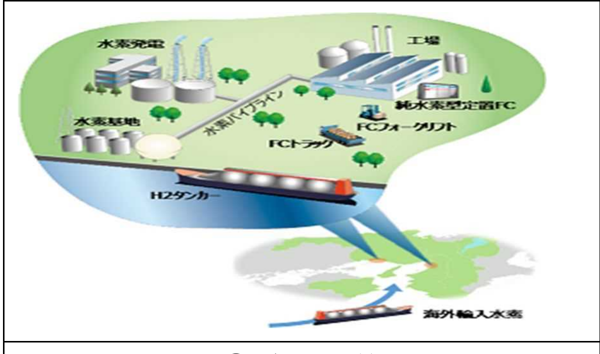
2020 年３月に、関西圏における水素ポテンシャルを活かした、水素の製造から貯蔵・輸送、利活用までのサプライチェーン構想（「将来における関西圏の水素サプライチェーン構想（以下「構想」という。)」を策定した。

この構想の実現に向けて、2021 年２月に「関西水素サプライチェーン構想実現プラットフォーム（以下「プラットフォーム」という。)」を設置し、広域的な連携を促進して具体的プロジェクトの創出などの取組みにつなげるため、関係者の情報共有と意見交換を行うこととした。

＜構成員（５２事業者・団体（2022 年 3 月 22 日現在、構成府県市除く）＞
構想の趣旨に賛同する事業者、試験研究機関及び支援機関
並びに関西広域連合の構成府県市（１２）

（参考）2030 年頃の関西圏の水素サプライチェーン

海外から輸入される水素や、圏域内で今後さらに普及が見込まれる再生可能エネルギーの余剰電力を活用して製造した水素を用いて、関西圏の地域特性を踏まえた水素の利用を想定し、以下の４つのケースで最適と考えられる水素サプライチェーンのイメージを提示。

<table>
<tr><td>①　海外輸入水素荷役施設近傍の工業地帯等</td><td>②　工業団地・物流拠点</td></tr>
<tr><td>
</td><td> </td></tr>
<tr><td>③　観光地等</td><td>④　新規開発エリア</td></tr>
<tr><td> </td><td>
</td></tr>
</table>

２．2021 年度の取組内容

（１）プラットフォーム全体会合

〇日　時：2021 年 11 月 30 日（火）10 時～12 時（オンライン開催、参加者：58 名）

〇内　容：１）水素関連の最新の動向について

① 第６次エネルギー基本計画（経済産業省資源エネルギー庁）

② 企業における水素社会実現に向けた取組

・関西電力株式会社（水素発電実証等）

・ENEOS 株式会社（CO2 フリー水素サプライチェーン構築に向けた検討）

・ジャパンハイドロ株式会社（水素エンジンの実用性）

２）2021 年度プラットフォームの運営について

（２）ダイアログ

プラットフォーム参加者の情報共有・議論・交流を深めるため、国、地方自治体、事業者の最新の取組を共有し、燃料電池（ＦＣ）モビリティの４つのテーマで自由な意見交換を行うダイアログを開催した。（全てオンライン開催）

	テーマ	開催日	参加者数	共有した取組み事例
1	燃料電池船	2022 年 2 月 10 日	43 名	・国土交通省（2050 年内航ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙの推進） ・ﾔﾝﾏｰﾊﾟﾜｰﾃｸﾉﾛｼﾞｰ㈱（ＦＣ船に関する取組）
2	燃料電池バス	2022 年 2 月 15 日	41 名	・東京都（燃料電池バス等の普及） ・神姫バス㈱（ＦＣバス導入事例）
3	燃料電池 トラック	2022 年 2 月 24 日	35 名	・国土交通省（燃料電池自動車の規制一元化） ・福岡県（ＦＣトラック実証）
4	燃料電池 フォークリフト	2022 年 3 月 29 日	53 名 （申込者数）	・ﾔﾏﾄ・H2Energy Japan㈱（移動式水素ｽﾃｰｼｮﾝと FCFL の活用取組） ・関西エアポート㈱（関西国際空港の FCFL 導入活用） ・㈱豊田自動織機（FCFL の取組）

（３）プラットフォーム参加者の取組みの公表

関西圏域内での水素の取組みを拡大していくために、プラットフォーム参加事業者の先進的な水素の取組みを関西広域連合のホームページに掲載した。（10 事業者（2022 年 3 月現在））

３．2022 年度の予定

新たに国内外の最新の水素の動向を紹介する事業者セミナーを開催し、プラットフォームの参加者を増やすとともに、引き続き具体的なテーマで自由な意見交換を行うダイアログを開催し、関係者の相互理解・交流・連携を促進する。

【参考：関西における燃料電池モビリティ等の普及状況】

- ◆ 燃料電池自動車（FCV）　：　計 508 台（2021 年 3 月末時点）
- ◆ 燃料電池(FC)バス　：　計　5 台（2022 年 3 月末見込み）
- ◆ 水素ステーション　：　計　22 か所（2022 年 3 月末見込み）